

JMP 15.2.1 リリースノート

JMP 15.2.1はメンテナンスリリースであり、再現可能なクラッシュの修正や、パフォーマンスの改善が行われています。すべてのお客様に、このメンテナンスリリースを適用することをおすすめします。

- OSのロケールが、サポートされていないものに設定されていると、JMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- グラフビルダーのグラフに列をドラッグしたときに、JMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- これまでより少ないメモリ量で、データテーブルの「連結」が行えるようになりました。
- 「表の作成」のレポートをインタラクティブHTMLまたはMicrosort Word形式で保存する際に、JMPがクラッシュする場合があるという問題が修正されました。このクラッシュは、「表の作成」のレポート中に空のサブテーブルがある場合にのみ発生するものです。
- Python Send()によりPythonにデータテーブルを送ったときに、「サポートされていないPythonデータタイプです。」というエラーが発生する問題が修正されました。
- 「標準最小2乗」プラットフォームにおいて、「因子の役割」列プロパティが含まれている列があるときに、[全水準の推定値] オプションを実行すると、JMPが異常終了するという問題が修正されました。
- macOS Big Sur Beta 1上で、グラフビルダーの凡例から [塗りのパターン] を選択するか、またはJSLのFill Pattern()を実行したときにJMPが異常終了する問題が修正されました。
- 外部モニターが接続されているノートPCが、スリープモードから復帰したときにJMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 列の値を対応させてデータテーブルを結合する際に、列に「値ラベル」プロパティが設定されていると、正しく対応させられない場合があるという問題が修正されました。
- 「予測プロファイル」の「シミュレータ」において、[多変量] を選択したときに設定する「X 因子の相関」が、スクリプトで実行した場合に無視されるという問題が修正されました。スクリプトに保存された相関が正しく使われるようになりました。
- グラフビルダーで軸を入れ子にしたときに、JMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 「一変量の分布」および「管理図ビルダー」において、標準偏差の計算における数値精度が改善されました。(絶対値で見て) 極端に大きな値や極端に小さな値がデータにある場合の計算が改善されました。

JMP 15.2 リリースノート

JMP 15.2はメンテナンスリリースであり、機能の拡張やバグの修正が行われています。特定の操作により再現可能なクラッシュや、数値結果に関する問題が修正されています。すべてのお客様に、このメンテナンスリリースを適用することをおすすめします。

新機能

- 「一元配置」プラットフォームの「同等性の検定」オプションを実行したときの結果の体裁が変更されました。以前のバージョンと体裁が異なる表が表示され、また、同等かどうかを示す散布図が表示されるようになりました。
- HDF5ライブラリが最新のものに更新されました。
- 「関数データエクスプローラ」において、出力が変換されたり、入力の配置が変更されたりすると、プロットの軸名が変換や配置を行ったことが分かるようなものになりました（これらは、JMPバージョン15.2では、日本語となっておらず、英語で表示されます）。
- フランス語・スペイン語・イタリア語・ドイツ語・中国語・日本語・韓国語のJMP Liveがリリースされました。プロファイルにおいて「編集」をクリックして、環境設定の言語を変更できます。

構造方程式モデル

- モデルをあてはめた後のパス図における各効果の矢印に対して、デフォルトで異なる透明度が設定されるようになりました。効果の大きさに対応させて異なる透明度が設定されており、濃い線ほど強い効果を示します。また、有意でない（デフォルトでは0.05）矢印は点線にて表示されるようになりました。
- パス図において、あらゆる推定値の表示／非表示を切り替えられるようになりました。以前のバージョンでは、平均構造の数値はパス図には表示できませんでした。現在のバージョンでは、平均構造は、デフォルトでは表示されませんが、メニューから選択することで表示できます。
- パズ図で、モデルの指定を変更できるようになりました。
- レイアウト変更のオプションが単純化され、6つあったものが2つに減らされました。
- パズ図において、グリッドを表示できるようになりました。グリッドを表示することにより、要素の配置を簡単に行えます。
- パズ図をロックできるようになりました。モデルを追加・変更するたびに要素の配置が換わりますが、ある時点の配置を固定できるようになりました。

一般的な機能の修正点

- 日本語版 JMP において、By 変数が2つある「変動性図」をジャーナルに保存すると、軸の設定が保持されないという問題が修正されました。「一元配置」プラットフォームでも同様の問題がありましたが、修正されました。

アプリケーションビルダー

- 同一のアプリケーション内にて複数のローカルデータフィルターをそれぞれ別のデータテーブルに設定したときに、同じ1つのデータテーブルを参照してしまうという問題が修正されました。

データフィルタ

- 「多重応答」列プロパティをもつ列に対してデータフィルタを設定し、「いずれも含まない」オプションを使用したときに、Where節での条件式が間違っているという問題が修正されました。
- 「ローカルデータフィルタ」にて、手入力した上限や下限が変更される場合があるという問題が修正されました。以前のバージョンでは、下限や上限が手入力された後、それらの値を近似したものを使っていました。

データテーブル

- 複数の列に対して「列属性の一括設定」にて、「欠測値のコード」列プロパティを設定した場合、そこで指定した欠測値とする値が保存されないという問題が修正されました。
- 以前のバージョンの「値の順序」列プロパティは「値の表示順序」という名前に変更されました。しかし、「要約」によって作成されたデータテーブルにて、「値の順序」列プロパティが使われていました。そこでも「値の表示順序」が使われるようになりました。

ホバーラベル

- 画像をデータテーブルに保存し、ホバーラベルにてその画像を表示した場合に、該当する行の画像とは別のものが表示されるという問題が修正されました。
- 多重応答の列を使用している場合に、グラフィレットでドリルダウンをする際のフィルタの設定に誤りが生じるという問題が修正されました。
- 多重応答の列がグループ化（X など）の役割に使用されている場合に、フィルタの設定に誤りが生じるという問題が修正されました。

読み込みと書き出し

- 日本語モードの JMP でデータテーブルを XPT ファイルに保存した際、列名に不要なアンダースコアが追加される場合があるという問題が修正されました。
- 「R1」や「R2」という名前の Excel シートを読み込もうとしたときに、シート名に含まれる数値がシート番号とみなされ、誤ったシートが読み込まれる問題が修正されました。

JMP Live

- JMP Liveページのルックアンドフィールが改善されました。また、モバイルデバイスでの機能がより充実したものとなりました。
- レポートの元となるデータまたはJSLを共有するか指定できるようになりました。
- それぞれの投稿またはフォルダのすべてのコメントを削除できるようになりました。
- JMP Liveの検索フィルタがフィルタアイコンの下に表示されるようになりました。
- すべての通知を削除できるようになりました。
- 管理者への通知が、ウィンドウ右にある通知アイコンの下に表示されるようになりました。アイコンにはユーザ通知と管理者通知の2つのタブが含まれています。

macOS

- iCloud Drive 上の一部の JMP ファイルにアクセスできない場合があるという問題が修正されました。
- Button Box のリンクスタイルのテキスト（青で下線を持つもの）が従来の左寄せでなく中央寄せで表示されてしまう問題が修正されました。
- スクリプトの 1 行目が「//!」となっている場合、ホームウィンドウでスクリプトファイルを control+ クリックし、[スクリプトの編集] を選んだときにスクリプトが実行されてしまうという問題が修正されました。

再コード化

- 多重応答の列で [空の項目を削除する] または [重複した項目を削除する] が正しく動作しない場合があるという問題が修正されました。

サンプルスクリプト

- サンプルスクリプト ConfidenceIntervalsForTheMean.jsl で、1 つだけ列を持つデータテーブルを使用し、Raw Data オプションをオンにした場合にエラーが発生する問題が修正されました。

Windows オートメーション

- オートメーションで表示されたデータテーブルを閉じる際に警告が法事される場合があるという問題が修正されました。

グラフ

グラフビルダー

- macOS 上で、グリッド線の色が変更できない場合があるという問題が修正されました。
- 「X」ゾーンに複数の列を設定し、別の列を「色」ゾーンに設定した場合に正しく色分けが行われないという問題が修正されました。
- キャプションボックスの [因子ごとに表示] オプションをオンにすると、統計量のラベルが正しく表示されない場合があるという問題が修正されました。
- ヒートマップのセルの大きさが、補助目盛りの間隔に合わせて調整されるようになりました。

統計機能

カテゴリカル

- 「遷移レポート」の棒グラフにおいて、遷移率が間違っって描かれるという問題が修正されました。

管理図ビルダー

- 三元管理図において、「群間+群内シグマ」の工程能力分析が表示されない場合があるという問題が修正されました。

管理図

- [旧機能の管理図] における [CUSUM (累積和)]、および、[管理図] における [EWMA] と [UWMA] において、[標本ラベルでグループ化した標本] オプションを選択した場合、標本サイズが正しく計算されないという問題が修正されました。

実験計画

- 完全実施要因計画が作成されていたような条件でも、D 最適ではあるものの完全実施計画ではない計画となる場合があるという問題が修正されました。
- 「計画の評価」および「群直交過飽和計画」において、[青->グレー->赤] オプションが動作しないという問題が修正されました。
- 群直交過飽和計画でサポートされていない因子数が指定された時のエラーメッセージが変更されました。エラーメッセージが、より分かりやすいものに修正されました。
- 線形制約や許可しない組み合わせで計画領域が制限されている場合、それらの制限を考慮して平均予測分散が計算されるようになりました。内部計算では、計画領域率プロットで計算されている値をもとに、平均予測分散が計算されています。

判別分析

- [グループの追加] オプションで「その他」のグループを仮定したときに、すべてのグループの確率の和が1を超えるという問題が修正されました。

一変量の分布

- 同順位のデータがある場合（同じ値となっているデータがある場合）に、[平滑化曲線のあてはめ] における分位点の計算が誤ったものになっている問題が修正されました。

外れ値を調べる

- 「外れ値を調べる」プラットフォームにおけるすべての手法で、ローカルデータフィルタが使えるようになりました。

寿命の二変量

- 散布図において点をクリックした時に、間違った値が表示されたり、範囲外であるとのエラーが出たりする問題が修正されました。

計算式デポ

- 「ニューラル」プラットフォームで生成された高速計算式から適切な Python コードを生成できないという問題が修正されました。

関数データエクスプローラ

- [X, 入力] 列が指定されていない場合、関数主成分プロファイルが描かれないという問題が修正されました。
- [関数実験計画分析] の一般化回帰において、変更した内容がスクリプトに保存されないという問題が修正されました。
- [関数実験計画分析] オプションを選択した時、その結果が表示されるように最初からスクロールダウンするようになりました。

JMP 15.2 リリースノート

- 予測値と残差のプロットが、元データと同じスケールで描かれるようになりました。
- 因子数が6よりも大きい場合、もしくは、関数の個数が1,000よりも大きい場合、[関数実験計画分析] で使われる一般化回帰は、総当たり法ではなく、減少付き変数増加法で変数選択を行うようになりました。
- 「関数データエクスプローラー」プラットフォームの関数実験計画分析において、予測式や残差の計算式をデータテーブルに保存できるようになりました。

JMP PRO 一般化回帰

- 減少付き変数増加法で、変数間に親子関係を課した場合、初期のステップで変数選択が終了することがあるという問題が修正されました。
- ベースライン関数が誤って処理されており、「プロファイル」およびデータテーブルに保存される列において値が間違っただけになっているという問題が修正されました。

非線形回帰

- By 変数が指定されていたり、Where 節が使われていたりした場合に、非線形回帰の結果が間違っただけになるという問題が修正されました。

工程能力

- ゴールプロットを色分けした後、軸を変更すると、色分けがおかしくなる問題が修正されました。
- 「分布の比較」における多重正規混合分布で、AICc と BIC が間違っただけになっているという問題が修正されました。

プロファイル

- 「離散数値」の役割をもつ列がある場合に、「予測プロファイル」のシミュレータで計算されるヒストグラム・平均・標準偏差が間違っただけになっているという問題が修正されました。
- 満足度関数において、データテーブルで保存されている列プロパティと異なる設定が指定された場合のみ、その変更された設定がスクリプトに保存されるようになりました。
- 「配合プロファイル」において、因子に対して制約がある場合、その制約を示す陰影が正しく描かれないという問題が修正されました。
- 「設定の記録」において、選択した1つだけの因子設定を削除できるようになりました。

標準最小2乗

- 同等性検定の p 値と t 値に対するラベルにおいて、上限と下限が逆になっているという問題が修正されました。
- Box-Cox 変換において、残差平方和に対する信頼限界を示す赤い水平線が負の位置に描かれる場合があるという問題が修正されました。

サポートベクトルマシン

- 「応答プロファイルプロット」においてスライダーを動かしていると、点の大きさが小さくなっていくという問題が修正されました。
- 「応答プロファイルプロット」において、[点の表示] に関するデフォルトが変更されました。X 変数が3変数以上ある場合には、デフォルトでは点が表示されなくなりました。

表の作成

- マウスポインターを選択ツールにして表示ボックスを移動させようとする、JMPが異常終了するという問題が修正されました。

テキストエクスプローラ

- 再コード化がレポートウィンドウで何回も指定された場合の処理が改善されました。内部的には、何回も指定された場合でも、ワンパスで処理されるようになりました。

変動性図

- 初期値の影響により反復計算で適切な推定値が得られない場合があるという問題が修正されました。

スクリプト

- 英語以外の表示言語モードで、「チャート」プラットフォームのスクリプトに含まれていた `Level[n] << Colors(xx)` オプションが、グラフィビルダーによって正しく認識されるようになりました。
- 計算式デポで、`IfMZ()` がサポートされるようになりました。
- `ColumnSwitcherObject << Close Outline` が、`ColumnSwitcherObject << Close Outline(1)` と同様に動作するようになりました。
- `Column Switcher` (列スイッチャー) に、列が変更されたときに実行するスクリプトを記述するためのオプションが追加されました。
- R インターフェースが再び macOS 上で動作するようになりました。JMP の `R Connect()` およびそれに関連する機能は、R の変更および macOS のセキュリティにより動作していませんでした。

JMP 15.1 リリースノート

JMP 15.1はメンテナンスリリースであり、機能の拡張やバグの修正が行われています。特定の操作により再現可能なクラッシュや、数値結果に関する問題が修正されています。すべてのお客様に、このメンテナンスリリースを適用することをおすすめします。

新機能

- 「構造方程式モデル」において、TLI、NFI、RMR、SRMR、修正GFI、修正AGFIを求めることができるようになりました。
- 「構造方程式モデル」において、いくつかの識別条件を満たしているかどうかをチェックした結果を示す「状態」タブが追加されました。このレポートから、現在、指定しているモデルが識別可能かどうかを確認できます。
- [ヘルプ] メニューより、ドキュメンテーションの『はじめてのJMP』を開けるようになりました。
- ドキュメンテーションのデータ例として、いくつかのサンプルデータが追加されました。
 - グラフビルダー: Bands.jmp、Bullet Measures.jmp、Corn Wheat Soybean Production.jmp、Likert Survey.jmp、Pie Sales.jmp、STEM Jobs.jmp
 - モデルに基づく多変量管理図: Polyethylene Process.jmp
- 管理図をインタラクティブHTMLで保存した場合、マーカーをクリックすると該当するサブグループのデータがすべて選択されるようになりました。
- [分析] > [品質と工程] > [管理図] のサブメニューとして [平均のIMR管理図] が追加されました。

改良点

軸

- 軸の範囲の外に参照線が定義されている状態で軸のスケールを対数に変更したときに、JMPが終了してしまう問題が修正されました。

データテーブル

- データテーブルに「なし」という名前の列が存在する場合に、「要約」プラットフォームで作成した要約テーブルのテーブルスクリプトを再実行したときの結果に誤りが生じるという問題が修正されました。
- JMP 15では「リストチェック」列プロパティが16ビットを使用して256以上の水準値をサポートできるようになりました。水準数が255以下の場合、従来と同じ8ビットでリストチェックが設定されます。
 - JMP 15で16ビットのリストチェックを設定したデータテーブルをJMP 14以前のバージョンで開くと問題が発生します。
 - この点を考慮し、[列] > [選択された列の圧縮] の機能を使用したときに意識せず16ビットのリストチェックが設定されてしまうことを防ぐため、「Allow 16 Bit List Check Compression」というオプションが環境設定に追加されました。デフォルトではオフになっています。

JMP 15.1 リリースノート

- [計算式列の新規作成] > [分布] > [SHASH] を選択したときの計算に時間がかかり、新しい列に欠測値を示すピリオドが表示された状態になるという問題が改善されました。
- 列情報ウィンドウで、「上位カテゴリ」列プロパティが設定されている列のデータタイプを変更し、再度「上位カテゴリ」を定義し直そうとすると JMP が終了してしまうという問題が修正されました。

ホバーラベル

- 「グラフビルダー」でグループ X、グループ Y、またはページの変数を指定している場合、ホバーラベルのグラフがこれらを考慮しないものになっているという問題が修正されました。

読み込みと書き出し

- 「複数ファイルの読み込み」で Microsoft OneDrive 上のファイルが読み込めない場合があるという問題が修正されました。
- 非常に大きな XML ファイルを読み込む際に、十分なメモリがあってもメモリ不足のメッセージが表示される場合があるという問題が修正されました。

JMP ヘルプ

- ポート 3000 が使用できない環境で JMP のヘルプが開けないという問題を回避するため、使用するポートが変更されました。

プロジェクト

- プロジェクトを保存していったん閉じた後再度開き、プロジェクト内のレポートをジャーナルにし、そのジャーナルの内容を PDF 形式で保存しようとするとき JMP がハングアップするという問題が修正されました。

再コード化

- JMP のサンプルデータの列のように別名を持つ列をデータテーブル内で複製したときに、元の列と複製した列が同じ名前になってしまう場合があるという問題が修正されました。

サンプル

- サンプルデータの索引のウィンドウ（[ヘルプ] > [サンプルデータ]）にある、Confidence Interval for One Proportion で算出される Standard Error of Proportion の数値に誤りがある問題が修正されました。

表の作成

- 要約統計量の表を作成するときに、その列の欠測値の行がすべて除外されているグループ変数を列テーブルに追加すると、JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。

変換列

- [計算式列の新規作成] > [分布] > [Johnson 正規化] を選択したときに JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。

グラフビルダー

- 非常に小さな数値を持つ変数の軸のスケールを「対数」にすると JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- JPEG ファイルのデフォルトのアプリケーションが Microsoft ペイントになっている環境で、グラフを JPEG ファイルとして保存しようとするエラーが発生するという問題が修正されました。
- 等高線のグラフで、列スイッチャーを使用して Y 変数を切り替えると JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- Y 軸の変数として 50 を超える列を指定したときに、軸が正しいスケールで表示されないという問題が修正されました。
- 「色」ゾーンにカテゴリカル変数を指定したときに、バイオリンプロットがすべて黒い色になるという問題が修正されました。

統計機能

管理図ビルダー

- 管理図を作成して [限界値の取得] を選択した後、[分析のやり直し] を実行すると、再実行された分析において [限界値の取得] が指定されていないという問題が修正されました。
- 設定パネルにて、テストやルールのをいずれかをチェックするたびに、設定パネルが閉じられるために、一度にテストやルールを設定できないという問題が修正されました。
- 「管理図ビルダー」における工程能力分析でオプションを変更したときに、その変更した内容がスクリプトに保存されないという問題が修正されました。
- 「警告レポート」において、適用したテストやルールが注釈として示されるようになりました。
- サブグループの列が連続尺度である場合に、箱ひげ図が非常に細く描かれてしまうという問題が修正されました。

判別分析

- フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語の JMP において、「判別分析」プラットフォームの [散布図行列] コマンドが実行できないという問題が修正されました。

一変量の分布

- 分位点に対する信頼区間の計算において、有意水準が 50% 以上（つまり、信頼水準が 50% 以下）であるときに結果を欠測値としていましたが、その制限をなくしました。
- 環境設定にて [工程能力分析の実行] オプションがオンになっていて、かつ、分析対象の列に「仕様限界」列プロパティが保存されている場合、工程能力分析が実行されるようになりました。

「一変量の分布」での「分布のあてはめ」

- 個々のあてはめに対してチェックボックスで表示／非表示を切り替えることができるようになりました。このチェックボックスを使えば、複数の分布のあてはまり具合を比較するために、個々のあてはめの結果の表示／非表示を切り替えることができます。
- 新しい「分布のあてはめ」機能において環境設定が行えるようになりました。

- 分位点プロット（QQプロット）および確率プロット（PPプロット）において、行属性が反映されないという問題が修正されました。
- ゼロ強調 負の二項分布において、累積確率プロットが $Y = 0$ のときに0になっていないという問題が修正されました。

モデルのあてはめ

- 起動ダイアログの「列の選択」リストボックスにて2番目にある列をダブルクリックすると、その列が変量効果として追加されるという問題が修正されました。そのような場合でも、「モデル効果の構成」に固定効果として列が追加されるようになりました。

JMP PRO 一般化回帰

- 「一般化回帰」プラットフォームの「予測値と残差のプロット」にて、欠測値である行が(0,0)にプロットされているという問題が修正されました。

二変量の関係

- 環境設定の「レポート」において、データテーブル名や日付をレポートの先頭に表示するようにした場合、「一元配置」レポートにて「複数行に配置」コマンドを選択すると、表示がおかしくなるという問題が修正されました。

関数データエクスプローラ

- 「関数主成分分析」の赤い三角ボタンのメニューより、関数主成分の個数を変更できるようになりました。
- Xのデータ量を減らすための3つの手法が追加されました。

仕様限界の管理

- 仕様限界の値がすべて欠測値である場合は、「仕様限界」列プロパティは削除されるようになりました。

多変量の相関

- [自動再計算] オプションがスクリプトに保存されないという問題が修正されました。
- 欠測値があるデータにペアワイズ法を選択した場合、[相関のp値]によって求められるp値が間違った値になっている問題が修正されました。

名義ロジスティック回帰

- 2水準のカテゴリカル変数1つだけが説明変数となっている場合で、かつ、検証列が指定されている場合、ROC曲線が描かれないという問題が修正されました。

主成分分析

- スコアプロットおよび負荷量プロットにおいて、101以上の主成分が表示された場合にラベルが間違ったものになるという問題が修正されました。

プロファイル

- 環境設定に、プロファイルに対する新しいオプションが追加されました。既存のスクリプトが希望通りに動作するために、スクリプトの環境設定を更新する必要があるかもしれません。

標準最小2乗

- Cox 配合モデルにおいて、各因子の範囲だけでなく、制約された空間も考慮して推定値が算出されるようになりました。
- 「効果の要約」にて効果を削除した場合に、最小2乗平均プロットのオプションに関するウィンドウが何回も呼び出される問題が修正されました。

構造方程式モデル

- パス図における要素の配置を決めるオプションが改善されました。また、パス図において要素を移動できるようになりました。
- パス図にパラメータ推定値を表示できるようになりました。標準化したパラメータ推定値、および、標準化していないパラメータ推定値を表示できるようになりました。

サポートベクトルマシン

- 度数の列を指定できるようになりました。

変動性図

- 「ゲージ R&R 平均プロット」において、X 軸に対するラベルの中心に点がプロットされていないという問題が修正されました。この問題は、モデルが枝分かれ型であり、かつ、データのバランス（釣合い）が取れていない場合にみに生じていました。
- 「変動性要約レポート」において、データがバランス（釣合い）が取れていない場合に、中央値が正しく計算されないという問題が修正されました。
- 連続尺度の列を [部品, 標本 ID] の列に指定したときのエラーメッセージが適切ではなかったという問題が修正されました。
- 「単位」列プロパティが指定されている場合、変動性図の軸にその単位が表示されるようになりました。

スクリプト

- Col List Box に列を追加したときに、On Change で指定した処理が動作しない問題が修正されました。
- スクリプトでデータテーブルに追加した式タイプの列の列名が半角数字で始まっていると、その列に画像が表示されず、セルをクリックすると JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- Number Editable Box() が指定したフォントで表示されるようになりました。これまではボックスをクリックしたときのみ指定したフォントで表示されていました。
- Col List Box() の << Set Analysis Type および << Set Data Type が正しく動作するようになりました。
- macOS 上で、スクリプトエディタ内で折りたたんだコードが、いったん保存して再度開いたときに折りたたんだままで表示されるようになりました。
- DataTable Col Box を表示した状態で、元となっているデータテーブルの行を削除または追加した後に Get Selected Row メッセージを送ると JMP が終了してしまうという問題が修正されました。
- データテーブルに新しい列を追加する際に、誤ったスクリプトを記述することで JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- Web Browser Box() の Navigate メッセージの引数に列の参照を指定した場合に正しく動作しない問題が修正されました。

JMP 15.1 リリースノート

- データテーブルのいくつかの列が選択された状態で Col List Box を作成した場合、選択されていたすべての列が Col List Box の中でも選択された状態で表示されるようになりました。JMP 15.0 では、選択されている中の最後の列のみが Col List Box で選択された状態で表示されていました。
- 「二変量」プラットフォームでカーネル平滑化による予測値を保存するスクリプトを実行すると、JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 「表の作成」プラットフォームでローカルデータフィルタを使用する場合、Make Row State Handler を使用してフィルタ条件が変更されたタイミングで処理を行うスクリプトが正しく動作するようになりました。
- Col Rank に文字タイプの列を指定し、<< Tie オプションも指定すると JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。